

育種事業課題名：そば新優良品種候補「キタミツキ（旧系統名 北海 14 号）」
担当部署：農研機構・北海道農業研究センター・畑作物開発利用研究領域・資源作物グループ
キーワード：そば、多収、高容積重

系統（品種）名		キタミツキ			由来		端野43/キタワセソバ		
特性	長所				短所				
	1. 「キタワセソバ」より多収である。								
	2. 容積重は「キタワセソバ」より重い。								
普及見込み面積 6,000 ha（令和7年度）									
調査場所		北海道農業研究センター （育成地）			中央農試（長沼町）・北農研（札幌）＊			深川・旭川・幌加内**	
調査年次		平成24～令和元年（標準播種）			平成24，26～30年			平成25～30年	
品種名 項目		キタミツキ	キタワセソバ （標準対 照）	レラノカオリ （比較）	キタミツキ	キタワセソバ （標準対 照）	レラノカオリ （比較）	キタミツキ	キタワセソバ （標準対 照）
播種期		6.04	6.04	6.04	6.02	6.02	6.02	6.08	6.08
開花期		7.12	7.11	7.10	7.10	7.10	7.09	7.15	7.14
成熟期		8.20	8.18	8.17	8.23	8.21	8.22	9.02	9.01
草丈（cm）		105	103	97	103	100	97	114	111
第一次分枝数		2.6	2.6	2.3	3.4	3.3	3.2	2.7	2.8
倒伏程度（無0～甚5）		1.3	1.2	1.1	2.9	3.2	2.9	1.1	1.4
子実重（kg/10a）		170	142	160	180	157	176	147	129
標準比（％）		120	100	112	115	100	112	114	100
容積重（g/L）***		599	588	573	608	594	582	604	590
千粒重（g）		29.2	29.2	30.6	32.1	31.0	32.9	28.3	28.5
製粉歩留		72.0	71.2	71.9	71.3	70.3	71.7	71.3	69.8
検査等級****		1.3	1.7	1.7	1.0	1.5	1.5	1.3	1.3
ルチン含量 （mg/100gDW）		24.1	20.0	14.9	23.5	20.8	15.0	21.0	17.2
伸育性		無限	無限	無限	食味評価結果*****				
生態型		夏型	夏型	夏型	A社（平成25-26年）				
花色		白色	白色	白色	品種名色香り味食感そばらしさ製麺性				
完熟粒の果皮色		黒色	黒色	黒色	キタミツキ2.52.12.12.12.22.3				
粒形		三角形	三角形	三角形	キタワセソバ2.02.02.02.02.02.0				
玄ソバ粒径分布（％）（φmm）					B社（平成25-28年）				
					品種名色香り味かたさそばらしさ合計				
					キタミツキ14.714.214.013.513.770.1				
					キタワセソバ14.014.014.014.014.070.0				
					C社（平成25,30年）				
					品種名色香り味かたさ弾力滑らかさ				
					キタミツキ5.55.04.94.85.04.9				
					キタワセソバ5.05.04.95.24.95.0				

*****A社の評価は4：優、3：良、2：可、1：不可。B社は「キタワセソバの」各項目を14（普通）として相対評価、C社の評価は7段階評価で数値が高いほうが高評価。C社の色（赤-緑）は、数値が高いほうが緑みが強い。

2. そば「キタミツキ」の特記すべき特徴

「キタミツキ」の子実重および容積重は「キタワセソバ」より重い。ルチン含量は「キタワセソバ」より高い。食味評価は「キタワセソバ」と概ね同等である。成熟期は「キタワセソバ」よりやや遅い。

3. 優良品種に採用しようとする理由

北海道のそば作付面積は、平成元年の4,930haから平成30年には24,400haへ拡大し、全国の作付面積の約4割を占める。平成30年度の日本のそば生産量は29,000トンであり、そのうち北海道の生産量は約4割を占め、北海道のそば生産の作柄が国産そばの供給に大きな影響を与えている。現在の主力品種「キタワセソバ」は、北海道のそば作付面積の約9割にあたる約21,000haで栽培されている。しかし、単収は漸減傾向であり、今後も北海道そばの生産を維持し、さらには国産そばの自給率（20.9%、平成30年度）を向上していくためには、生産性の高い品種が必要である。また、経営所得安定対策における、農産物検査規格の改正（平成27年度）で、そばは容積重に応じた等級格付けとなり、容積重が従来以上に重要視されるようになったため、生産者からは多収かつ高品質（高容積重）の品種が求められている。

「キタミツキ」の収量性は「キタワセソバ」より高く、容積重は「キタワセソバ」より重いことから、安定生産や生産者の収益増加が見込まれる。実需者による品質評価では「キタワセソバ」と遜色がない。

以上の理由から、「キタミツキ」を「キタワセソバ」に置き換えて普及することにより、北海道および国産そばの生産振興に貢献できる。

4. 普及見込み地帯

全道のそば作付け地帯



図 普及見込み地帯等における子実重の「キタワセソバ」対比 (%)

北農研（芽室）は平成24～令和元年（標準播種）、中央農試は平成24、26年、北農研（札幌）は平成27～30年、深川は平成25～30年（5月下旬播種）、幌加内／旭川は幌加内が平成27、29～30年、旭川が平成25～26年の平均

5. 栽培上の注意

- 1) 「キタワセソバ」並に脱粒しやすいため適期収穫につとめる。
- 2) 原採種ほの設置に際しては、交雑を避けるために他品種との距離が十分に離れた圃場を選定する。